



図1 太田天神山古墳の測量・GPR 調査の成果



図2 航空写真 (上) と GPR 作業の様子 (下)

(1) 測量・GPR 調査の概要

本研究では、埼玉県行田市の埼玉二子山古墳(城倉ほか2018)、群馬県藤岡市の七輿山古墳(城倉編2020)など、140mを越える大型前方後円墳の三次元測量・地中レーダー(GPR)探査の調査を実施してきました。2021年度末には、公益財団法人鹿島学術振興財団の研究助成を受け、群馬県立歴史博物館・太田市教育委員会と共同で東日本最大の前方後円墳:太田天神山古墳の測量・GPR 調査を実施しました。調査は、2022年2月28日～3月28日(29日間)に実施しました。調査範囲は墳丘・内溝とし、全面の三次元測量とGPR探査を行いました。

(2) 研究史上の位置付けと課題

太田天神山古墳は、東日本最大の墳丘長210mを測る前方後円墳で、古墳時代中期に上毛野の広域を支配した首長の奥津城と想定されています(梅澤1990・1996)。墳丘外形は、

奈良県佐紀古墳群のコナベ古墳(梅澤1999)や大阪府古市古墳群の墓山古墳(若狭2017)と一致するという説もあります。また、同時代の高崎市不動山古墳(梅澤1970・群馬県埋蔵文化財調査事業団2010)や伊勢崎市お富士山古墳(伊勢崎市教育委員会1990)とも共通する点が指摘されています(梅澤1999)。

畿内との関係だけでなく、地域における古墳の展開を考える上で重要な古墳ですが、現在までの発掘調査は周溝・中堤に限定されており(太田市教育委員会1982・1990・1999・2009)、墳丘の立体情報の取得が望まれる状況でした。

(3) 測量・GPR 調査の成果と今後の予定

以上の状況を踏まえて、本研究では墳丘・内溝の三次元測量・GPR 調査を実施しました。世界測地系に基づく詳細な点群を取得して等高線図を作成し、全面の地中レーダー探査も行いました(図1・2)。三次元の立体情報を取得し、GPR

で葺石の残存状況を確認する作業によって、築造時の墳丘を復元するための多くの知見を得ることができました。

現在は、調査成果をまとめる報告書の作成作業に入っています。太田天神山古墳では、古くから長持形石棺(梅澤1996)の存在が知られており、中堤からは埴輪も出土していますので、今は関連資料の調査を進めている段階です。今後、墳丘の立体構造を復元すると同時に、石棺や埴輪などから年代を検討する作業を進めていきたいと考えています。

引用文献

- 伊勢崎市教育委員会1990『お富士山古墳』
- 梅澤重昭1970「群馬県群馬郡綿貫不動山古墳」『日本考古学年報』18
- 梅澤重昭1990「毛野地域圏の発展」『群馬県史 通史編1 原始古代1』群馬県
- 梅澤重昭1996「毛野政権の成立」『太田市史 通史編 原始

古代』太田市

- 梅澤重昭1999「毛野の前方後円墳の系譜」『前方後円墳の築造企画』東北・関東前方後円墳研究会
- 太田市教育委員会1982『天神山古墳外堀部発掘調査概報』太田市教育委員会
- 太田市教育委員会1990『天神山古墳外堀・A陪塚一範囲確認調査一』
- 太田市教育委員会1999『天神山古墳外堀発掘調査報告書』太田市教育委員会
- 太田市教育委員会2009『天神山古墳外堀確認調査報告書』群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 2010『箱石浅間山古墳 不動山古墳』
- 城倉正祥ほか2018「埼玉二子山古墳のGPR調査2017」『溯航』36
- 城倉正祥編2020『群馬県藤岡市七輿山古墳の測量・GPR調査』早大東都絹研デジタル調査概報2
- 若狭 徹2017『前方後円墳と東国社会』吉川弘文館